

環境審議会および検討部会 経緯

	検討部会	環境審議会	内容
平成 27 年度		<input type="checkbox"/> 審議会 4/27	検討開始の報告 ・策定について
	■ 検討部会 6/29	<input type="checkbox"/> 審議会 6/29 ・ 諮問	現況と課題の把握 ・ 策定の背景 ・ 昨年度調査結果に基づく世田谷区の特徴と課題 ・ 構成（案）の検討 ・ 区民参加による生きもの調査の報告
		<input type="checkbox"/> 審議会 7/24	
	■ 検討部会 10/2		骨子の検討 ・ スケジュールの確認 ・ 前回までの環境審議会及び環境審議会検討部会の まとめ ・ 骨子（案）検討 ・ アンケート調査及びワークショップ概要の報告
		<input type="checkbox"/> 審議会 11/4	
平成 28 年度	■ 検討部会 3/11		たたき台の検討 ・ スケジュールの確認 ・ 前回までの環境審議会及び環境審議会検討部会の まとめ ・ 骨子の確認 ・ たたき台（案）の検討
		<input type="checkbox"/> 審議会 4/28	
	■ 検討部会 6/6		素案の検討 ・ スケジュールの確認 ・ 前回までの環境審議会及び環境審議会検討部・会 のまとめ ・ 素案の検討 ・ 名称（案）の検討
		<input type="checkbox"/> 審議会 7/7	
	■ 検討部会 10/		案の検討
	<input type="checkbox"/> 審議会 11/		
		<input type="checkbox"/> 審議会 ・ 答申	

(3) 庁内検討

区役所内の検討体制として、みどり推進会議（部長級）及び、その下部組織として、幹事会（課長級）と作業部会（係長級）を設置し、関係所管課で横断的に検討しました。



幹事会・作業部会の様子

幹事会および作業部会 構成

所管課
世田谷総合支所街づくり課
北沢総合支所街づくり課
玉川総合支所街づくり課
砧総合支所街づくり課
烏山総合支所街づくり課
政策経営部政策企画課
政策経営部財政課
施設営繕担当部施設営繕第一課
環境総合対策室環境計画課
環境総合対策室環境保全課
産業政策部都市農業課
産業政策部消費生活課
都市整備政策部都市計画課
都市整備政策部都市デザイン課
都市整備政策部市街地整備課
みどりとみず政策担当部みどり政策課
みどりとみず政策担当部公園緑地課
土木部土木計画課
教育委員会事務局教育総務課
教育委員会事務局教育環境推進担当部教育施設課
教育委員会事務局教育政策部教育指導課
一般財団法人世田谷トラストまちづくりトラストまちづくり課

2. 文献調査及び現地調査

(1) 文献調査

表●に各分類群の調査状況及び生きものの状況を整理しました。生きものの分布が把握できる情報については、分類群、調査地、調査年に偏りが見られ、鳥以外の分類群、区東部、2000年以降の情報が不足しています。生きもの情報は国分寺崖線沿いの緑地と多摩川に集中しており、地理的な偏りがあります。一方で、鳥類については、現在まで世田谷区全域において、十分な調査が長年にわたって行われていました。動物については、外来種の情報が少なくありません。

表●(1) 文献調査によって把握された区内の生きものの状況

分類群・種数	調査の状況及び生きものの状況	その他の調査状況
哺乳類 5目5科9種	<ul style="list-style-type: none"> 文献はいずれも昭和53年～平成4年のものであり、調査地も成城みつ池や多摩川など、区西部に偏っている。 希少種としては、モグラ、ハタネズミ、アカネズミ、アナグマの3科4種が確認された。ネズミ類は主に多摩川で確認されており、モグラは公園や緑地で確認されている。アナグマは昭和53年の情報である。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定外来生物であるアライグマの繁殖が確認されている（平成22年）
鳥類 21目58科261種	<ul style="list-style-type: none"> 鳥類の文献は、「世田谷の鳥 2010」など近年の情報も整理されており、区内全域の情報がある。 希少種としては、キジ、オシドリ、コアシサシ、トビなどの19科80種があげられた。 特定外来生物は、ガビチョウ、カオグロガビチョウが多摩川で確認され、ソウシチョウが仙川、野川、馬事公苑、蘆花恒春園、砧公園、岡本静嘉堂緑地で確認された。 	
両生類・爬虫類 3目9科12種	<ul style="list-style-type: none"> 文献は、昭和56年～平成4年のものであり、調査地は区西部に偏っている。 希少種としては、アズマヒキガエル、イシガメ、ヤモリなど7科9種が確認された。 特定外来生物であるウシガエルは喜多見6丁目野川左岸で確認され、ミシシippアカミミガメは烏山弁天池で確認された。 	
昆虫 14目185科821種	<ul style="list-style-type: none"> 文献昭和62年、平成4年のものであるが、調査地は区東部も含む比較的広い範囲で行われている。 希少種としては、モノサシトンボ、コロギス、イトアメンボなどの17科29種が確認された。 	

表●(2) 文献調査によって把握された区内の生きものの状況

分類群・種数	調査の状況及び生きものの状況	その他の調査状況
魚類 6目7科21種	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「多摩川の魚類生態調査－Ⅰ昭和48年秋及び昭和49年冬における調査結果について」及び「多摩川の魚類生態調査－Ⅱ昭和49年度の調査結果及び総合解析について」(東京都水産試験場)が実施されている。 ・ 希少種としては、シマドジョウ、ナマズなどの3科5種が確認された。 ・ 特定外来生物は、カダヤシが二子橋下流の赤岩で、コクチバスが野川で確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世田谷区(環境総合対策室・環境保全課)による野川、仙川、丸子川、谷沢川を対象とした調査が平成9年から実施されている。
底生動物 18目39科58種	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「世田谷区みどりの環境センサス(動物)調査報告書」(世田谷区)が実施されている。 ・ 希少種としては、モノアラガイ、ヌカエビ、オナガサナエ、ヤマトクロスジヘビトンボなどの5科5種が確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世田谷区(環境総合対策室・環境保全課)による野川、仙川、丸子川、谷沢川を対象とした調査が平成9年から実施されている。
植物 148科900種	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「世田谷区みどりの環境センサス(植物)調査報告書」(世田谷区)や野外植物研究会による国分寺崖線調査報告、成城みつ池を育てる会による神明の森みつ池の植物誌がまとめられている。 ・ 希少種としては、トウゴクシダ、ハンノキ、ノジトラノオなど29科52種が確認された。 ・ 特定外来生物は確認されなかったが、文献では確認できなかった可能性がある。 ・ 植栽種や植栽・栽培由来の逸出種、外来種(帰化種)は83科258種と、種数全体の3割近くを占めている。 ・ ニリンソウ、タマノカンアオイ、アマナ、エビネ、キンランなどの樹林性の希少種や、ハンノキ、カワチシャ、ツリフネソウ、ショウブなどの湿地や水辺の希少種が記録されており、都市域にあって希少な樹林や水辺が残存している状況がうかがえる。 	

世田谷区の生きものについての文献調査資料

【哺乳類】

- 文献 1 第 2 回自然環境保全基礎調査報告書動物分布（東京都・神奈川）（昭和 53 年環境庁）
- 文献 2 多摩川流域自然環境調査報告書（昭和 53 年、財団法人とうきゅう環境浄化財団）
- 文献 3 新明の森みつ池特別保護区環境調査報告書（昭和 56 年世田谷区）
- 文献 4 岡本静嘉堂特別保護区環境調査報告書（昭和 57 年世田谷区）
- 文献 5 鳥山弁天池特別保護区環境調査報告書（昭和 60 年世田谷区）
- 文献 6 1986 年聞き取り情報
- 文献 7 日野圭一氏目撃（昭和 62 年）
- 文献 8 世田谷区みどりの環境センサス（動物）調査報告書（平成 4 年世田谷区）

【鳥類】

- 文献 1 世田谷の鳥 2010—世田谷区鳥類目録—（平成 22 年、世田谷トラストまちづくり）

【両生類・爬虫類】

- 文献 1 新明の森みつ池特別保護区環境調査報告書（昭和 56 年世田谷区）
- 文献 2 岡本静嘉堂特別保護区環境調査報告書（昭和 57 年世田谷区）
- 文献 3 鳥山弁天池特別保護区環境調査報告書（昭和 60 年世田谷区）
- 文献 4 世田谷区みどりの環境センサス（動物・昆虫調査）（昭和 62 年世田谷区）
- 文献 5 世田谷区みどりの環境センサス（動物）（平成 4 年世田谷区）

【昆虫】

- 文献 1 世田谷区みどりの環境センサス（動物・昆虫調査）調査報告書（昭和 62 年世田谷区）
- 文献 2 世田谷区みどりの環境センサス（動物）調査報告書（平成 4 年世田谷区）

【魚類】

- 文献 1 多摩川の魚類生態調査— I 昭和 48 年秋及び昭和 49 年冬における調査結果について（東京都水産試験場 昭和 49 年）
- 文献 2 多摩川の魚類生態調査— II 昭和 49 年度の調査結果及び総合解析について（東京都水産試験場 昭和 50 年）

【昆虫類】

- 文献 1 世田谷区みどりの環境センサス（動物・昆虫調査）調査報告書（昭和 62 年世田谷区）
- 文献 2 世田谷区みどりの環境センサス（動物）調査報告書（平成 4 年世田谷区）

【底生動物】

- 文献 1 世田谷区みどりの環境センサス（動物）調査報告書（平成 4 年世田谷区） 苔虫

類、貝形類、ヒドラ科は除く。

【植物】

- 文献 1 野草 No.287 (野外植物研究会 昭和 40 年)
- 文献 2 世田谷区みどりの環境センサス (植物) 調査報告書 (世田谷区 平成 3 年)
- 文献 3 世田谷区みどりの環境センサス (植物) 調査報告書 (世田谷区 平成 8 年)
- 文献 4 神明の森みつ池成城みつ池緑地植物誌 (成城みつ池を育てる会 平成 25 年)

コラム NO.● 外来種とは？

外来種とは、本来その地域に生息していなかった生きものが、人間の活動によって、他の地域から持ち込まれた生きもののことです。特に、外来種の中でも、地域の生態系に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのあるものを「侵略的外来種」とよびます。

わが国では、2005年（平成17年）に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」が施行されました。この法律では、侵略的外来種の中から特定の種を「特定外来生物」に指定し、「その飼養、栽培、保管、運搬、輸入等について規制を行うとともに、必要に応じて国や自治体が野外等の外来生物の防除を行うこと」を定めています。

世田谷には、特定外来生物に指定されているアライグマ、ガビチョウ、オオキンケイギクなどが生息・生育しています。



【アライグマ】

北米原産であり、ペットとして輸入されたものが野生化。アニメなどで可愛いイメージがありますが、気性が荒く、農作物の被害や固有在来種の捕食が深刻化しています。



【ガビチョウ】

中国南部から東南アジア北部原産であり、ペットとして輸入したものがかご脱けしたものが定着。在来の鳥類が減少するなどの生態系への影響がみられます。



【オオキンケイギク】

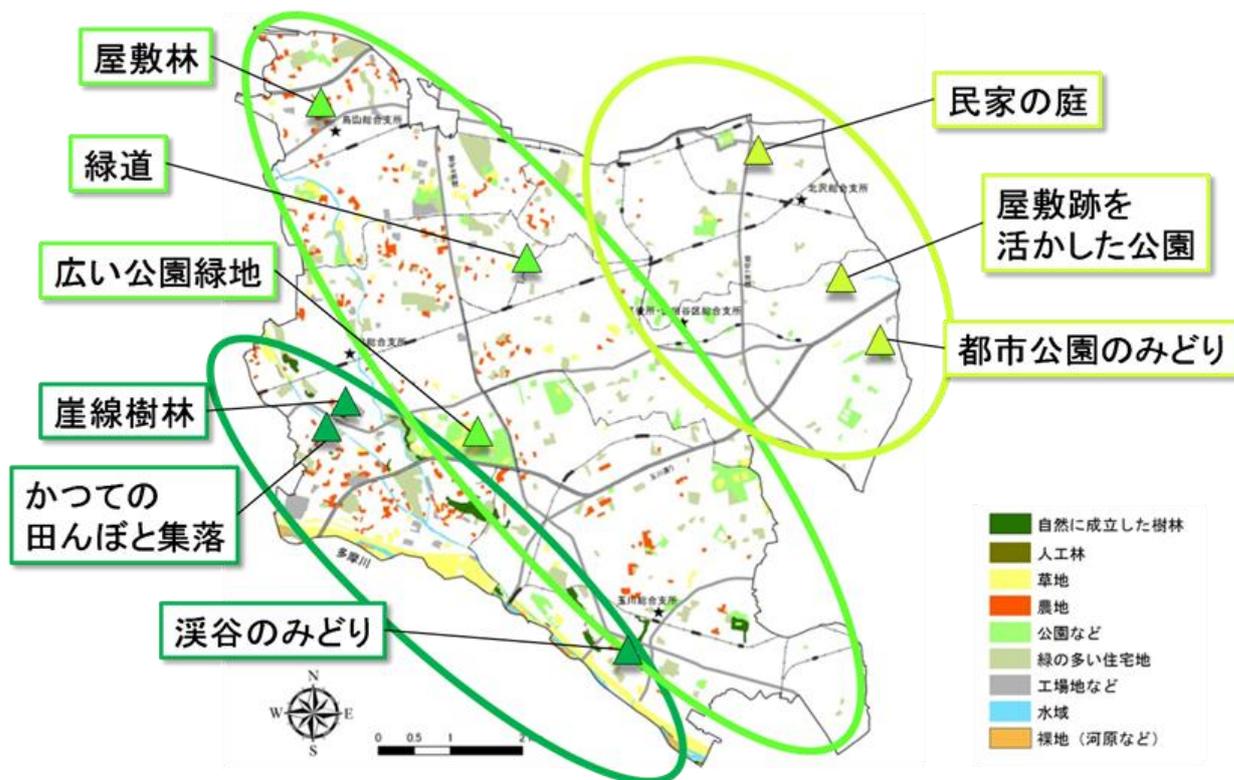
北米原産であり、鑑賞用、緑化用に導入されたものが分布を拡大。カワラサイコやカワラナデシコなどの在来の河原固有の植物と競合し、駆逐する事例がみられます。

(2) 現地調査

世田谷区の生きものについての網羅的な調査は、みどりの環境センサス（昭和62年、平成3～4年）以降実施されてきませんでした。そのため、身近な自然の状況を把握するために、区内の動植物や自然に関する文献などの既存情報を収集し、整理するとともに、区内の緑地を対象に、平成27年度に現地調査を実施しました。

1) 現地調査による生きものの把握

世田谷区の河川及び主な湧水（図●）、生産緑地地区の分布状況（図●）、世田谷区のみどりの分布状況（図●）、世田谷区の植物の分布状況（図●）などから、大きく3地域に区分しました。3つのエリア区分の中から公園など公共の緑地を中心に、各地域3か所選定し、調査地としました（表●）。西部は、国分寺崖線や多摩川を中心とした「みどりの連続性が高い地域」、中央部は公園や屋敷林、畑など「住宅地の中の中・小規模緑地が点在する地域」、東部は都心に近く、「市街化が進み比較のみどりが少ない地域」としました。各地域で世田谷区の代表的な環境を3地点ずつ選定し、調査地としました。調査対象は、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、昆虫類、魚類、底生動物、植物として、平成27年に調査を行いました。



図● 現地調査の地点

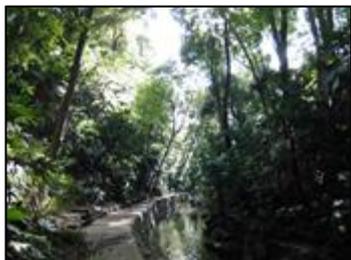
表● 調査対象地

地域	種類	緑地名	環境
西部：みどりの連続性が高い地域	渓谷	等々力渓谷公園	樹林、河川
	崖線樹林	成城三丁目緑地	湧水、雑木林、
	かつての田んぼと集落	次大夫堀公園	水田、水路、樹林
中部：住宅地の中に中・小規模緑地が点在する地域	広い公園緑地	砧公園	樹林、草地、河川、池
	緑道	烏山川緑道	樹林、草地、(河川)
	屋敷林	北烏山九丁目屋敷林市民緑地	ケヤキ林、竹林、畑地
東部：市街化が進み比較的にみどりが少ない地域	民家の庭	大原一丁目柳澤の杜市民緑地	和風庭園、樹林
	都市公園	世田谷公園	樹林地、草地、噴水池
	屋敷跡を活かした公園	三宿の森緑地	樹林、草地、ビオトープ池

2) 現地調査による生きものの特徴

みどりの連続性が高い地域

溪谷



代表的な景観



ハグロトンボ



スミウキゴリ

【代表的な場所】 溪谷の流れと斜面に発達した樹林を保全する公園など
 【植生の特徴】 大木が林立し、湧水周りにはシダ類が豊富に生育している。
 【動物の特徴】 ハグロトンボやスミウキゴリなど、水辺に生息する動物が確認される。

崖線樹林



代表的な景観



サワガニ



キンラン

【代表的な場所】 国分寺崖線のみどりの一角を担うまとまった樹林など
 【植生の特徴】 雑木林と湧水のある環境で、キンランなど希少な植物も生育している。
 【動物の特徴】 サワガニなど湧水や河川に生息する動物のほか、タヌキなども確認される。

かつての田んぼと集落



代表的な景観



ドジョウ



タモロコ

【代表的な場所】 野川沿いにかつてあった水田と民家集落を再現した公園など
 【植生の特徴】 水路沿いをはじめとして、集落景観を形成する野草が生育している。
 【動物の特徴】 ドジョウやタモロコなど、平野部の水田や湿地に生息する動物が確認される。

住宅地の中に中・小規模緑地が点在する地域

広い公園



代表的な景観



特定外来生物 アライグマ



オオタカ

[代表的な場所] 都立砧公園などの世田谷を代表する広い公園
 [植生の特徴] 大木と芝地からなる緑地のほか、下草の多い林や水辺植生などがある。
 [動物の特徴] タヌキやアライグマなどの中型哺乳類や鳥類などが生息している。

緑道



代表的な景観



特定外来生物 オオキンケイギク



キバラヘリカメムシ

[代表的な場所] かつての川を緑道として整備した場所など
 [植生の特徴] 路傍の身近な草花が生育する一方、園芸品種も含む様々な植栽がある。
 [動物の特徴] 植栽木や路傍の草花を利用する昆虫類などが確認される。

屋敷林



代表的な景観



エビネ



クロアゲハ

[代表的な場所] 300年以上つづく農家の景観を今に残す屋敷林など
 [植生の特徴] ケヤキやモウソウチクなどの屋敷林や庭木、植込み、畑などがある。
 [動物の特徴] 庭木や植込み、畑などを利用する鳥類や昆虫類などが生息する。

市街化が進み比較的みどりが少ない地域

民家の庭



代表的な景観



カワラナデシコ



キキョウ

[代表的な場所] 住宅地内に残された昔ながらの民家の庭など
[植生の特徴] 庭木や生け垣などの植栽のほか、珍しい野草類が生育する。
[動物の特徴] 庭木や生け垣、庭の草花などを利用する鳥類や昆虫類が生息する。

公園



代表的な景観



ヤモリ



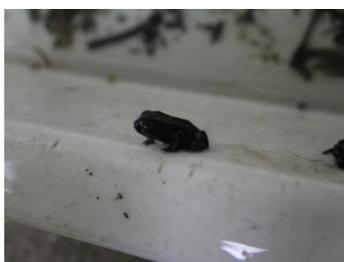
アブラコウモリ

[代表的な場所] レクリエーションや運動、憩いの場となる公園など
[植生の特徴] 木が多いが地表に草は少なく、生育する植物は限られる。
[動物の特徴] 身近な鳥類や昆虫類のほか、アブラコウモリやヤモリなどが生息する。

屋敷跡を活かした公園



代表的な景観



アズマヒキガエル（幼体）



ホタルブクロ

[代表的な場所] かつての屋敷林を残して整備した公園など
[植生の特徴] 昔からある大きなシイの木や野草類などが生育する。
[動物の特徴] 民家の庭に生息するアズマヒキガエルをなど、身近な動物が確認される。

○植生調査による環境の特徴

エリア区分	調査対象地	景観写真	環境
みどりの連続性が高い地域	等々力溪谷公園		<ul style="list-style-type: none"> ・溪谷の流れと斜面に発達した樹林を保全する公園 ・大木が林立し、湧水周りにはシダ類が豊富に生育 ・特徴：リョウメンシダ、ハリガネワラビ、アスカイノデ、ササバギンラン
	成城三丁目緑地		<ul style="list-style-type: none"> ・国分寺崖線のみどりの一角を担うまとまった樹林 ・雑木林と湧水の環境に希少な植物が多く生育 ・特徴：キンラン、エビネ、ナルコユリ、ミゾホオズキ
	次大夫堀公園		<ul style="list-style-type: none"> ・野川沿いにかつてあった水田と民家集落を再現した公園 ・水田や水路に因んだ植物や、様々な野草を配した集落景観 ・特徴：水田、ハンノキ、路地の植え込み、ホトトギス
住宅地の中 中・小規模緑地が点在する地域	都立砧公園		<ul style="list-style-type: none"> ・世田谷を代表する広い公園のひとつ ・大木と芝地のほか、草木の多い林や水辺もある ・特徴：バードサンクチュアリ、下草の多い林、イロハモミジ、ヤブタバコ
	烏山川緑道		<ul style="list-style-type: none"> ・かつての川を緑道として整備した場所のひとつ ・様々な種類の植栽と路傍の身近な草花が生育 ・特徴：イヌタデ、ススキ、ウツギ、ヤマノイモ
	北烏山九丁目屋敷林市民緑地		<ul style="list-style-type: none"> ・300年以上つづく農家の景観を今に残す屋敷林 ・ケヤキの大木や竹林、庭先のみどり、隣接する畑が特徴的 ・特徴：庭木の植え込み、竹林、ケヤキ、エビネ

○植生調査による環境の特徴（つづき）

エリア区分	調査対象地	景観写真	環境
市街化が進み 比較のみどりが少ない地域	大原一丁目柳澤の杜市民緑地		<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地内に残された昔ながらの民家の庭 ・今では珍しくなった様々な野草類が見られる。 ・特徴：カワラナデシコ、ワレモコウ、エビネ、キキョウ、ホトトギス
	世田谷公園		<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーションや運動、憩いの場となる公園 ・木が多いが地表に草は少なく生育する植物は限られる。 ・特徴：日当たりのよい草地、ツツジ、ナンテンハギ
	三宿の森緑地		<ul style="list-style-type: none"> ・かつての屋敷林を残して整備した公園 ・昔からある大きな木や池、野草類が見られる ・特徴：スダジイ、ハンゲショウ、ホタルブクロ、ウマノスズクサ

○動物調査の結果（重要種など）

重要種は以下の3つの選定基準としてあげられた文献に掲載されている種を示します。

選定基準1：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年 法律第75号)

通称、種の保存法は、絶滅のおそれのある野生動植物を保護するための法律。
保護の対象となる国内の希少野生動植物は「国内希少野生動植物種」、国際的な希少野生動植物種は、「国際希少野生動植物種」に指定されます。

【カテゴリー】

- ・ 国内希少野生動植物種（国内）：日本に生息・生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種で、政令で定められるもの
- ・ 国際希少野生動植物種（国際）：国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種で、政令で定めるもの
- ・ 緊急指定種（緊）：国内希少野生動植物種及び国際希少野生動植物種以外の野生動植物の種で、保存を特に緊急に図る必要があると認められるもの（環境大臣が3年以内の期限内で指定）

選定基準2：第4次レッドリストの公表について（お知らせ）（環境省 平成24年8月28日）

絶滅のおそれのある野生生物種のリスト。
生息する野生生物について生物学の観点から個々の種の絶滅危険度を評価し、絶滅のおそれのある種を選定してリストにまとめたものです。

【カテゴリー】

- ・ 絶滅 (EX)：わが国ではすでに絶滅したと考えられる種
- ・ 野生絶滅 (EW)：飼育・栽培下のみで存続している種
- ・ 絶滅危惧IA類 (CR)：ごく近い将来に野生での絶滅の危険性が高い種
- ・ 絶滅危惧IB類 (EN)：IA類ほどではないが、近い将来に野生での絶滅の危険性が高い種
- ・ 絶滅危惧II類 (VU)：絶滅の危険が増大している種
- ・ 準絶滅危惧 (NT)：現在、絶滅危険度は小さいが、「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
- ・ 情報不足 (DD)：評価するだけの情報が不足している種

選定基準3：東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～レッドデータブック東京2013～(区部)(東京都 平成25年)

東京都は、平成25年5月に、「東京都の保護上重要な野生生物種」(本土部)～東京レッドリスト～2010年版の全掲載種を解説した冊子を作成しています。

【カテゴリー】

- ・ 絶滅 (EX)：東京都において、すでに絶滅したと考えられる種
- ・ 野生絶滅 (EW)：東京都において、飼育・栽培下のみで存続している種
- ・ 絶滅危惧IA類 (CR)：ごく近い将来に野生での絶滅の危険性が高い種
- ・ 絶滅危惧IB類 (EN)：IA類ほどではないが、近い将来に野生での絶滅の危険性が高い種
- ・ 絶滅危惧II類 (VU)：絶滅の危険が増大している種
- ・ 準絶滅危惧 (NT)：現在、絶滅危険度は小さいが、「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
- ・ 情報不足 (DD)：評価するだけの情報が不足している種
- ・ 留意種 (*または*1)：現在、絶滅のおそれはないが、準絶滅危惧(NT)に準じる孤立個体群の存在する種や外来種の影響が懸念される種、環境指標になる種など
- ・ ランク外 (○)：東京都に生息・生育しているが、上記のカテゴリーに該当しない種
- ・ データ無し (ー)：東京都に生息・生育しているが、確実な記録や情報が得られなかった種
- ・ 非分布 (・)：もともと東京都には生息・生育しないと考えられる種

①哺乳類

■主な重要種

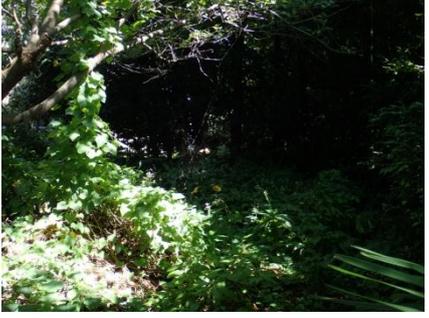
和名 カテゴリー	写真	環境
アズマモグラ (塚) 区部 留意種		 (次大夫堀公園 裸地沿い)

■主な外来種

和名	写真	環境
アライグマ 特定外来生物		 (砧公園 サンクチュアリ)

②両生爬虫類

■主な重要種（春季）

和名 カテゴリー	写真	環境
アズマ ヒキガエル 区部 NT	 幼体	 (三宿の森公園 ビオトープ)
ヤモリ 区部 VU	 成体	 (世田谷公園 公園樹木)
トカゲ 区部 CR+EN	 幼体	 (北烏山九丁目屋敷林 草地)
カナヘビ 区部 VU	 成体	 (北烏山九丁目屋敷林 草地)

■主な重要種（春季）

和名 カテゴリー	写真	環境
ヒバカリ 区部 VU	 成体	 （等々力溪谷 常緑低木）

■主な重要種（早春季）

和名 カテゴリー	写真	環境
アズマヒキガ エル 区部 NT	 成体  卵塊	 （砧公園 サンクチュアリ内の池）  （次大夫堀公園 用水路）

■主な外来種

和名	写真	環境
アカミミガメ	 <p>成体</p>	 <p>(次大夫堀公園 ため池)</p>

③昆虫類

■主な重要種（春季）

和名 カテゴリー	写真	環境
アカシジミ 区部 DD		 <p>(成城三丁目緑地 アズマネザサ)</p>
ウラナミアカシジミ 区部 CR+EN		 <p>(砦公園 シバ草地)</p>

■主な重要種（春季）（つづき）

和名 カテゴリー	写真	環境
オオアメンボ 区部 CR		 （等々力溪谷 河川）
（春季） オオクワガタ 環境省 VU 区部 CR *移入個体の可能性 が高い		 （三宿の森緑地 広葉樹林）
（春季） ヒラタクワガタ 区部 VU *移入個体の可能性 が高い		 （北烏山九丁目屋敷林 常緑樹林）
（春季） ヒメトラハナムグ リ 区部 EN		 （世田谷公園 公園樹木）